

シンポジウム「私の卒業研究を振り返って～大学で学ぶということ～」

■卒業論文題名

「児童虐待—虐待家庭への支援の在り方—」

■そのテーマを選んだ理由

- ・もともと社会福祉学科に入ろうと思った理由の一つ
- ・実習に行った児童養護施設の影響

テーマを決定するまでは紆余曲折…。

■卒論の内容・主旨

主に家庭における虐待に焦点をあて、児童虐待を単なる個人の病理と考えるのではなく、その背景にある様々な要因を明らかにした上で、虐待者や被虐待児のニーズに即した支援とはどのようなものかを論及。

児童虐待＝家族というシステムの相互作用の効果が問題を生み出したもの
児童虐待への支援は、その家族が抱えるリスク因子をなくしていくこと
⇒その際、家族と社会の関わりに着目

■卒論で苦労したこと・感想

- ・とにかくエビデンスがつかまとう！！→引用を上手に活用
- ・全体のバランス→書けるところからとにかく書き出す
- ・4年間の集大成！今まで学んだ知識をフル活用

■大学生活を振り返って

- ・自分から動けば、それを実行する手段はたくさん用意されている場
- ・学びは色んなところに潜んでいる
- ・計画を立てる習慣を！
- ・仲間を大切に☆

一年間、とても楽しかったです♪本当にありがとうございました！

野木 麻里

私は「児童虐待——虐待家庭の支援の在り方」というテーマで論文を書きました。このテーマを選んだ理由は、もともと児童虐待に興味があって、福祉学科に入ったこともあるのと、3回生の社会福祉実習の時に行った児童相談所で、虐待で入所する子どもが多く、その子どもたちの支援が、家族再統合を目指している施設だったので、家族に対してカウセンリングや面会といった支援をされていたことが影響していたかなと思います。

家族支援、子どもを保護したら、それで終わりではなく、その後も支援を続けているのがいいなと思ったのが、このテーマにしたきっかけです。このテーマに決定するまでに小西君ほどではないけど、紆余曲折しました。はじめは音楽療法とか、福祉のまちづくりに興味があったんですけど、3回生くらいから発表を何回かしていったって、最後はやっぱり、もともと興味があった児童虐待をやりたいなと思って、このテーマにしました。

卒論の内容は児童虐待というのは絶対にしてはならないことだけど、親が加害者とか、子どもが悪いとか、誰かに責任を問えるような簡単な問題ではないところから、さまざまな背景を明らかにした上で、虐待された家庭が真に求めている支援は何かということを論及していきました。

その際に関連機関が連携することはもちろんですが、虐待が起きないような、暮らしやすい社会、地域づくりをするための仕組みを考えていまして、私の場合は地域ネットワークの強化、社会福祉の基礎整備を、充実させることなどに焦点を当てました。

卒論で苦労したのは、エビデンスがつかまとうということです。先生から「エビデンス」という言葉をノイローゼになるくらい言われて、たとえば普通のレポートだったら、「近年、虐待への関心が高まっている」とかで許されるんですよ。でもそれを卒業論文でいおうとしたら、それだけではだめで、その証拠がいるのです。私の場合は、そのことを言うために新聞のデータベースで1990年～2008年まで1年ごとに児童虐待のキーワードで調べて何件ヒットするかを表にしました。90年代は16件、19件だったのに対して2000年度に入ると402件とか486件と増えていたのが明らかで、これによって国民の関心が高まっているのではないかという感じで書きました。また、自分の意見をもとに卒論を書いていくわけですが、それを裏付けるような本の意見を引用しないといけないので、今のうちから、引用が上手になるようにしていけば、かなり卒論をスムーズにかけるのではないかと思います。

二つ目は全体のバランスです。私は、とにかくエビデンスと思って、ことあるごとにいっぱいエビデンスをつけていたら、時間がなくなって、1章で満足してまったんですよ。それで私は最後の書きたい4章を書けなくて、先生にコテンパンに怒られたんですけど、どこを一番書きたいのかを考えて、別に一章から書けという決まりはないので、4章からでも、書けるところから、どんどん書いていった方がいいなと反省しました。

卒論は4年間の集大成だと思うので、今まで実習で話し合ったこととか、授業で学んだこととかも生きてくると思うので、今まで学んだ知識をフル活用して自分のベストを尽くしてほしいなと思います。

大学生活を振り返って。大学は、自分から動けば、それを実行する手段はたくさん用意されている場ということで、同志社は特にいろんな設備が整っていると思うんですが、大学は強制的にはいわないじゃないですか。情報が掲示はされていますが、見てないと、知らないままに終わるし、データベースも用意されているのに全然使わないままに終わったら、もったいないなと思っています。皆はちゃんと教育充実費でお金を払っているんですよ。その分を取り返すくらい大学の設備を使ってほしいなと思います。学びは、いろんなところに潜んでいるということで、学校での授業は、もちろんですが、サークル、バイト、委員会とか、旅行に行っ

たり、いろんなところで人生の学びは一杯転がっているなと思います。わたしは大学に入ってから、そういうのを意識するようになって、高校生までは授業をこなすことで精一杯でしたが、大学に入って学びの幅が広がったと思うので、積極的にいろんなことにチャレンジしてほしいと思います。それをするためには計画を立てる習慣が必要になるなど、今、反省しているんですけど、決められた時間に、これをしなさいということは大学ではないんですけど、ボーッと過ごすと、何もせずに終わってしまうので、いっぱいやりたいことを見つけたら、どの期限までに、これをしてとか優先順位をつけたり、という習慣をつけていくと有意義な大学生活が送れるのではないかなと思うので、今のうちから計画を立てる習慣をつけてほしいなと思います。

最後に仲間を大切に。福祉学科は授業とかで会う機会も多いと思うので、一杯友だちをつくって4回生まで大切にしてほしいなと思います。私は卒業してからも今の福祉学科の友だちと仲良くしていきたいと思っているので、そういう友だちを見つけてください。以上です。

児童虐待

—虐待家庭への支援の在り方—

19062062

野木 麻里

<キーワード> 「家族支援」「環境」「地域ネットワーク」

<梗概>

児童虐待の防止等に関する法律が 2000 年に成立したことや、マスコミによる痛ましい事件の報道などから、近年児童虐待に対する人々の関心が高まってきている。それにより、顕在化の傾向が進み、児童虐待への対応は急務な社会問題となっている。本論文では、主に家庭における虐待に焦点をあて、児童虐待を単なる個人の病理と考えるのではなく、その背景にある様々な要因を明らかにした上で、虐待者や被虐待児のニーズに即した支援とはどのようなものかを論及している。

その上で、児童虐待は家庭というシステムの相互作用の効果が問題を生み出したと捉え、家族構成員を個別に支援するのではなく、家族全体を支えるという視点を持つ。そして、その家族が置かれている環境面におけるリスク因子をなくすために、その家族が抱える社会経済的な問題や地域ネットワークを代表とした社会資源の活用に関心を当てたいと思う。

<目次>

はじめに

第 1 章 児童虐待とは

第 1 節 児童虐待の定義

第 2 節 児童虐待の種類

第 3 節 児童虐待対応の歴史

第 2 章 児童虐待のメカニズム

第 1 節 虐待のリスク因子

第 2 節 虐待の補償因子

第 3 章 児童虐待への対応

第 1 節 虐待発見から処遇までの流れ

第 2 節 親へのアプローチ

第 3 節 子どもへのアプローチ

第 4 節 環境へのアプローチ

第 4 章 児童虐待家庭を社会で支えるために

第 1 節 家庭を支えるという視点

第 2 節 社会経済的問題への対応

第 3 節 地域ネットワークの意義

おわりに